

『この一年、私たちは平和に近づいたのだろうか？』

★今、国会では「行政改革」花ざかり。しかし、腐敗した官僚と墮落した政治家を見るにつけても、本格的行革は、夢物語に終わるような気が致します。★さて、この一年、私たちは果たして平和に近づいたのか、それとも戦争に近づいたのか、あなたはどう思われますか？ 一〇二、点検してみましよう。

(一) まず第一は、日米安保条約の再定義（再改定）が行われ、物品役務相互協定、有事研究、安保広域化（安保は、日本を守るだけでなく、アジア太平洋地域の安定を維持するためのものであり、更に、地球規模の問題についての日米協力の土台も安保にあること）が合意され、安保そのものが、大きく変質したのです。私たちは、事の重大性に気づいているでしょうか。

(二) 第二は、沖縄の少女暴行事件に端を発して、沖縄県民の怒りが爆発し、橋本首相をはじめ、政治家達を慌てさせたことです。私たち本土の国民は、米軍基地の大部分を沖縄に押しつけ、五十年を過ごしてきました。本当に申し訳ないことでした。しかし、米軍実弾演習場等を本土に移転させるとなると、引き受ける所がないのです。この事は、「日本に米軍基地は必要」ということを示すものではないでしょうか。

しかるに、日米の政治家達は、安保の名の下に実弾演習場を本土へ押しつけるでしょう。沖縄の大田知事も、土地強制使用を合憲とする最高裁不当判決の前に、広告縦覧に応じ、その手続きを進めつつあります。結局、安保条約は、国民の平和と人権を踏みにじるものでしかないのです。

(三) 第三は、今、AWACS配備に向け、浜松基地の滑走路や格納庫の工事が進行中です。この配備により、市民の生命と人権を脅かす騒音と危険が増大し、次世代に「軍事都市・浜松」を遺産として残すことは明らかです。市民の幸せを二の次にして、軍備を受け入れた浜松市政とは、果たして市民のためなのか。

十年後、二十年後には、その答えが出ることになるのでしょうか。

★この状況で、平和に近づいたのか？ 戦争に近づいたのでしょうか？

……一九九六年十二月八日（日）・第三五八回 憲法を守る平和行進……
（尚、本日は今から五五年前、日本が真珠湾攻撃をして、侵略戦争を拡大した悲しい記念日です）

浜松市憲法を守る会
事務局 浜松市紺屋町三〇一〇十